

## 第10回独立行政法人農林漁業信用基金農業保険関係業務運営委員会 議事概要

### 1 日時及び場所

- (1) 日時 令和2年10月13日(火) 12時54分～14時19分
- (2) 場所 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル5階 共用第一会議室

### 2 出席者

#### (1) 運営委員

出資者：池田委員、澤井委員、砂場委員、成川委員、村井委員  
学識経験者：川口谷委員、津滝委員、水上委員、米本委員

(出資者・学識経験者別 五十音順)

#### (2) 信用基金

今井理事長、森島副理事長、深水総括理事、小林理事

#### (3) オブザーバー(主務省)

谷農林水産省経営局保険監理官

### 3 提出議案

- (1) 令和元年度の業務の実績に関する評価について(報告)
- (2) 令和元年度の決算について(報告)
- (3) 第4期中期計画の変更について(報告)

### 4 情報提供

最近の被害状況、農業経営収入保険の現状等について

- (1) 農業保険関係業務の貸付動向と今後の見通しについて
- (2) 最近の被害状況
- (3) 収入保険の現状について
- (4) N O S A I 静岡の収入保険への取り組み

### 5 議事経過の概要及びその結果

信用基金から上記3(1)から(3)の議案について説明がなされた。

また、上記4(1)について信用基金から、4(2)について澤井委員、村井委員、砂場委員、池田委員、川口谷委員及び津滝委員から、4(3)について成川委員から、4(4)について村井委員から説明がなされた。

運営委員からの主な質問等は、以下のとおり。カッコ内は、これに対する信用基金の説明。

#### 【質問等】

○ 業務の実績に関する評価について、評価と自己評価の違いは何か。

また、平成30年度は、自己評価をあらわすカッコ書きはないが、カッコ書きの自己評価の記載は、令和元年度からの対応か。

(自己評価は、法人が自己評価しているものであり、評価は、主務大臣の評価である。平成30年度に係る自己評価はすべてB(所期の目標を達成)で提出し、主務大臣の評価もBであった。平成30年度の自己評価にカッコ書きがないのは、自己評価と主務大臣の評価に乖離がなかったことによるものである。)

- 農業共済団体の組織合併が進み団体数が減ったことにより、1団体当たりの純財産が増えているとのことだが、一方で、農業共済団体の運営を考えると、1団体当たりの純財産が増えたからといって、農業共済団体に体力がついたというわけではなく、信用基金の今後についても、団体側として期待している。  
(信用基金の役割は、引き続き変わらないものと考えている。貸付けが発生することが想定されない時期があれば、手元現金を一時的、短期的に運用することとしたいというだけであり、農業共済団体に対する貸付けが円滑に行われることを前提に考えなくてはいけないものと認識している。)
  
- 以前、信用基金は広報誌を作成していたが、今はないと聞いている。そこで、信用基金に広報誌を作成いただき、こういうかたちで事業をやっているという情報発信を行っていただきたい。  
(昨年までは、農業信用保険業務以外の分野は広報誌を作っていなかったが、今年の1月から農業保険関係業務も含めて広報誌を作成している。今年始めたばかりであまり浸透していないかもしれないが、そういう取り組みを進めていきたい。)

以上